

新たな野球スタジアムの建設に向けた賛同者署名のお願い

現在、本県の硬式野球場は、大洲総合運動公園内（別大興産スタジアム）の一施設のみであり、1980年の開場以来すでに45年が経過しております。

ご承知のように、観客収容人数も少なく、駐車場も狭い上、施設の老朽化や不備等もあって、プロ野球の公式戦は2008年以来、一度も開催されておられません。

一方、大分県出身のプロ野球選手は、読売ジャイアンツの甲斐拓也選手をはじめ、ソフトバンクホークスの今宮健太選手、西武ライオンズの源田壮亮選手、広島東洋カープの森下暢仁選手等、多数の選手が大活躍しているものの、大分県には公式戦を誘致できる野球スタジアムがないため、その醍醐味やプロ野球の持つ集客力、知名度を活用した観光等の情報発信ができていない状況にあります。

MLBにおいては、大谷選手をはじめとした多くの日本人選手の活躍もあり、野球に対する熱量はますます上昇しており、さらに2028年ロサンゼルス五輪での野球やソフトボールの追加実施によって、国民的な熱量はさらに増していくものと思います。

このような状況下で、新たな野球スタジアム（公式野球場、サブグラウンド、室内練習場）の建設が実現すれば、単に試合の開催だけでなく、プロ野球チームやソフトボールの実業団チームのキャンプ地としての役割、キャンプで訪れた選手と夢を追う子どもたちとの交流機会の場、さらには観光情報の発信拠点など、その期待される役割は多岐に渡り、地域の元気づくりに大きく寄与できるものと考えます。

昨年策定された大分県の長期総合計画「安心・元気・未来創造ビジョン2024」では、「プロスポーツの観戦機会の拡大と地域交流の推進」や「まちづくりや地域活性化の核となるスタジアム等の実現」を目標として掲げています。

つきましては、一日でも早い野球スタジアム建設の実現に向け、県民一丸となって強力に要請するため、上記趣旨にご賛同いただき、署名のご協力方よろしく願いいたします。

令和7年4月

大分県新球場建設促進協議会（10団体）

- 大分県高等学校野球連盟（高野連）
- 九州地区大学野球連盟
- 大分県野球連盟（社会人）
- 大分県軟式野球連盟（軟野連）
- 大分県還暦軟式野球連盟
- （公財）日本少年野球連盟大分県支部
- （一般財）日本リトルシニア中学硬式野球協会
- リトルシニア九州連盟大分リトルシニア
- ヤング大分ブレーブス球団
- 株式会社大分Bリングス
- （一社）大分県ソフトボール協会



電子署名へアクセス